



信仰をしっかりと守る: FORTES AND WYD 有難う、シャミナード神父様！



300名ほどの若者、50名の修道士と修道女、それに付き添いの人々が二つのグループになって、ボルドー、ペリグー、ミュンデン、サラゴサのシャミナード師の足跡をたどりました。彼らは世界中の至る所、ヨーロッパ、北米、それに南米とアジアから来たのです。それに、この旅がスペインに入ったところで、100名ほどのアルバニアから来た人たちが、WYD（ワールドユースデー）に続いて、サラゴサでこれに加わりました。これは友愛とお祝いと祈りの豊かな体験であり、私たちの創立者が生きた場所との忘れられない接触、そしてマドリードでの普遍教会との素晴らしい触れ合いでした。今回体験したことは一同の心に刻み込まれ、これからの活動に生かされています。

グループ間で、また参加者とシャミナード神父の思想の間で、対話がこれほど易しく成立するのを目にするのは何とも嬉しいことでした。シャミナード神父の後に従っていくことは、ごく自然なことだと思えたのです。訪れたそれぞれの場所で、シャミナード神父がマドレーヌで組織した集い、そして、その聖堂から出て、各地に広がった集いがそうであったに違いない何かを、私たちは味わったのです。

もし仮に上記以外のただ一つのときを味わうとすれば、それは、マドリードで教皇聖下と過ごした前夜祭の間に行なわれた、礼拝の時間の熱心な祈りの雰囲気です。感動的な前夜祭の嵐の後、自分たちを招いてくださった御方、イエス・キリストに向けられた百万を超える若者たちの印象的な沈黙だけが支配しました。各人の内的態度、各人のもつバックグラウンドは千差万別ではありましたが、この出会いの作者として御自分を示されたのはまさしくあの御方だったのです。

次回、2013年のWYDの開催地となるブラジルからの証言の中で皆さんが目にするように、このような集いを続けるようにとの願いがあります。私たちの行政単位の中の種々の事業の若者たち、あるいは、可能なら異なる国々や行政単位からくる若者たちが出会えるように計らうことを、私たちはためらってはなりません。このような集いは若者と成人の信仰を養い鼓舞して、一人ひとりが、自分は、聖母マリアの保護のもとに、創立者たちによって開始され、キリストによって集められた一つの同じ家族に属しているのだ、ということをもっと意識するようになるのです。各人は、マリアニストとして自分たちに独特なものは何であるのか、私たちは何を生き、どんな寛大な奉仕を継続しなければならないかをより良く見分けるようになるのです。

私たちの集いに関わる二つの立派な舞台を組織してくれた主催者の方々に、心からなる感謝を捧げます。また、はっきりと目に見えるかたちでこれらの日々を私たちと一緒に過ごしてくださったシャミナード神父様に、深い感謝を捧げます！

André Fétis, sm

今回の内容：

Fortes—WYD	1-3
« Come and see » experiences	4-5
Chamiadventure	6-7
Interview JC Martos, cmf	8

次回のVOCSMの発行は2012年2月です。

皆さんの活動についてのニュース、写真、あるいは提案、などを送ってください。

Thank you!
(genrelsm@smcuria.it)





「キリストに根を下ろして造り上げられ、教えられたとおりの信仰をしっかりと守りなさい。」
(コロサイ 2:7)

ベネディクト16世

お告げの祈り

Cuatro Vientos Air Base, Madrid
2011年8月21日(日)



“わたしはペトロの後継者としてここにいる皆様に次の使命をゆだねます。イエス・キリストの知識と愛を全世界に知らせてください。キリストは、皆様が21世紀の使徒となり、ご自身の喜びの使者となることを望んでおられます。キリストを悲しませないでください。”

(次のこま以外はカトリック中央協議会司教協議会秘書室研究企画訳)

“私は、皆様が社会と教会における自分の召命を見出し、また、喜びと忠実をもってたゆまずその召命に励むのを助けてくださるよう神に祈ることをしきりに勧めます。イエス様が皆様を捜し求め、皆様に信頼し、そしてまた、その紛れようもない声で「私に従いなさい」(マルコ2・14)と皆様に言われているのを知る時に皆様が感じる幸せを言葉にするのは困難です。”



“皆様は相対主義的な文化をもった社会の潮流に逆らって生きなければなりません。相対主義は真理を求めることも、つかむことも望まないからです。しかし、主が皆様を遣わされたのは、大きな問題を抱え、チャンスを宿しているこの歴史の中の今という瞬間(とき)でした。それは、皆さんの信仰を通して、イエス・キリストの福音が地上に鳴り響き続けるためです。”

“信仰は理論ではありません。信じるとは、イエスと個人的にかかわり、他の人々との交わりと教会の交わりのうちにイエスとの友愛を生きることです。全生涯をキリストにゆだねてください。いのちの泉である神に至ることができるように、皆様の友人を助けてください。主が皆様をキリストの愛の喜びに満ちた証人としてくださいますように。”



“今日キリストは皆様に願います。キリストに根ざし、キリストという岩の上に皆様の人生を築いてください。キリストは皆様を、恐れを知らず、勇気を持ち、真実で信頼の置ける証人として派遣します。カトリック信者であることを恐れないうでください。周りの人々に、単純で真実なしかたであかしすることを恐れないうでください。教会が皆様と皆様の若さのうちに喜びに満ちた福音の宣教者を見いだすことができますように。”



Fortes and WYD : これは私達にとって

マリアニスト家族と分かち合うために、私たちブラジルの巡礼者が一緒になって書いたテキストです：

数か月前まで、私たち若いマリアニスト信徒のフェルナンダとタイッサ、マリアニスト修道士のビクトール・アウグスト、それに200名余りの若者たちは、2011年8月12日から22日の間に体験することになる出来事と熱狂について考えもしませんでした。マリアニスト創設に関連した幾つもの場所に行くことは、一つの機会でもあり夢でもありましたが、それは私たちの召命と夢を再活性化する好機でした。それに加えて、私たちの参加はワールドユースデー(WYD)への参加でもあったのです。

ある人たちの目には、私たちがおかしな連中と映ったことでしょうか、別の人たちの目には、私たちは信仰において力強い若者、私たちの霊的、教会的な家族であるマリアニスト家族の体験の中でその信仰を再確認しようとする若者と映ったのです。そして、創立者福者シャミナードの生誕250周年を記念し、祝い、その祝賀を教皇聖下と若者たちが出会う式典と結び付けて、“教皇聖下の若者”の一員となることを願う若者だったのです。

WYD では、私たちは祈りの時間、歌い手たちの演出と要理の勉強に参加しました。スペイン文化にも少し触れることができましたし、教皇聖下にも、8メートルほどの至近距離でお会いできたのです。疲れていたとはいえ、私たちは勇気も熱意も失うことはありませんでした。ひどい暑さでしたが、私たちは信頼に満ち、幸せ一杯になって進んで行きました。これらの瞬間、瞬間は素晴らしいもので、その折に体験したこと、そしてあの日々について今も感じ続けていることを、多くの言葉を使って書き、表現しようとしているにも拘らず、あの体験を全部、文章にすることはできません。

私たちは、リュックサックの中に、共同体の全員と分かち合うべき思いと体験を詰め込んで持ち帰りました。そしてまた、私たちの一人一人が、行動を起こし、若者たちを勇気づけるよう信仰を強められました。私たちの確信と理想は今やずっと大きくなっています、何故なら、私たちは一人ぼっちではなく、こんなにも多くの仲間の一員であることを知っているからです！



最後に、教皇聖下により派遣され、自分の生活をキリストの中に根付かせることを誓い、聖パウロと創立者のように、信仰に固く立つ若者として、私たちは、若者たちと共に、マリアの手と結ばれた私たちの手で、キリストを知らせ、愛させ、奉仕させるという事業を継続するために、神の国の奉仕に自分を捧げます。

今回の集いに参加するという素晴らしい機会が与えられたことにつき、私たちは神、血縁の家族と霊的な家族（マリアニスト家族）、そして修道会共同体に深く感謝いたします。今回の集いを通じて、私たちはすばらしい胸のわくわくするような出来事の日に体験した個人的・共同体的な出会いについて証し続けるための新たにされた力を感じています。

An abraço,

Fernanda Saggiore, Thaissa Caroline G. Coppi and Bro. Victor Augusto F. De Aguiar, sm



召命のため、また、養成中のマリア会員のための祈り

北米、メキシコ、インド、フィリピンの全マリアニスト修道者は、つい最近、養成中のマリアニストのための祈りのリストという新しい小冊子を受け取りました。養成中のマリアニストというのは、アメリカ、インド、メキシコ、フィリピンの有期誓願者、初期養成にある者及び入会に関心を示している人々のことです。

16ページのこの小冊子は、四週間サイクルの毎日の聖務で、特別な1グループの志願者と養成中の会員のために祈ることを提案しています。その日に割り当てられた人々の正確な氏名がリストに明記されて、少なくともこの点で、彼らと親しくなるとても良い機会となります。

例えば、第一週のための意向を引用してみます：(但し、ここでは氏名は省いておきます)

日曜日 - 管区の召命チームのため； 月曜日 - 第一年目のノビス(アメリカ)；

火曜日 - インドの三年目の学生修道者； 水曜日 - メキシコ従属地区の有期誓願者； 木曜日と金曜日 - インド一年目のノビス； 土曜日 - メリバ管区の志願者；

他の日には、汚れなきマリア修道会の志願者と若い修道女のためとなっています。小冊子に添付された手紙の中で、リーダーの Tom Wendorf は次のように述べています：

「これらの男性・女性のために祈ることは、召命司牧を分かち合う一つの欠くことのできない手段です。管区内の大部分の共同体が、ミサや時課の典礼の共同祈願中で、この小冊子を毎日用いていることを私は知っています。これは、若いマリアニストの名前を知り、祈りの神秘的な力を通して彼らの進んでいく道と結びつく手段です。

これらの男性・女性を祈りで応援して下さる皆さんに感謝します。マリアニスト生活の過ごし方を知ることで、皆さんが彼らをまだ知らないとしても、いつか彼らと出会うことになるでしょう。その時、皆さんは既に知っている名前と顔が結びつくことになるでしょうし、彼らの名前を祈りの中で何度も繰り返したことになるのです。」

これは、私たちが真似ても良い素晴らしいイニシアティブではないでしょうか？このようなイニシアティブが発揮されるには、志願者や養成期間にある人々のために定期的に祈るという方法を組織することによって、召命があり、養成中の修道者がいます。また、このようなイニシアティブを発揮して、神の助けを祈り、求め続けることによって、しかし同時に、他の行政単位にすでにいて、私たちの応援を当てにしている人たちのために祈りながら、私たちは召命を待っているのです！神がマリア会全体に与えてくださった召命という贈り物に対して、祈りを通して私たちの心を開きましょう。祈りはこれほど助けとなるのですから、私たちの祈りの力を弱めないようにしましょう。

PRAYER LIST

For Marianists in Formation



For those in temporary profession, initial formation and association with Marianists in the U.S., India, Mexico and the Philippines

来て、見なさい！最近数カ月の間になされた召命のための集い

アメリカ Governor's Island (Ohio, USA)

7月21日から24日にかけて、数名の志願者、ノビス、有期誓願者、男女の終身誓願者が夏の黙想：“見て、聞いて、くつろぎなさい”に参加しました。この集いはここ8年間、夏に（二年毎に）開かれています。



West Hills 共同体 (カリフォルニア)

この共同体は、2011年9月18日、「識別の日曜日」を開催し、2名の若者 John と Matt が参加しました。これは一日の集いで、この共同体が年間を通して定期的に開催しているものです。この集いは、通常、朝の祈りで始まり、召命の識別についての会合と話し合い、昼食、ミサが含まれています。West Hills の共同体は、ロスアンジェルスとその近郊で、活発な召命司牧を続けています。

識別の夕べ

デイトンの召命事務局は、9月23日、金曜日、ストーンミル通り12番地のデイトン大学学生キャンパスにある修道者たちの共同体で「識別の夕べ」を開催しました。プログラムは晩課で持って始まり、続いて夕食会となりました。その後、Bro. Bob Jones とノビスの Mark Motz が今回の集いのテーマである「時間をかけて；祈りと識別の夕べ」について語りました。

Bob と Mark はこの集いに参加した22名の学生たちと、自分たちが辿った識別の旅について分かち合いました。二人は、多忙な日常生活の中であって、神の呼びかけに積極的に耳を傾げるために時間をかけることを強調しました。このテーマが提示された後で、学生たちは静かな考察の一時間を過ごしました。この夕べを終結するにあたって、学生たちは一つになって語り合い、それぞれの思い、洞察をわかちあいました。シスターNicole Trahan が夕べの祈りを先唱して、会合は閉じられました。



サン・アントニオ：Casa Maria での5日間の共同体生活

Casa Maria の共同体は、11月13日から19日まで、セント・メアリー大学の5名の学生を迎えました。これは、共同体の日常生活に完全に参加することで、彼らにマリアニスト修道生活を直接に体験させるために計画されました。

ペルー： 召命の日

2011年6月12日、私たち小教区の若いカテキスタ数名が、午後5時から8時まで、私たちの初めての召命の日を開催しました。私たちは、聖母マリアやシャミナード師がしたように、私たちを愛し、自分に従うように呼びかけておられるイエス様を知ることの喜びと魅力について考察しました。この分かち合いを指導してくれたのは、カヤオのマリアニスト志願者で、私たちの友であるChino Percy Garcia です。

Comunicaciones SM – Perú (2011 #2)



サンチアゴ – チリ： ファウスティーノ運動の堅信の黙想

10月19日、水曜日、サン・ミゲル小教区学院 第三学年の生徒達は、堅信の秘跡の準備として、信仰を固めるために時間を捧げました。この黙想日に、私たちは、イエスと出会うために、生徒たちと沈黙の生活体験を分かち合いたいと思いました。最初に、マルコ福音書 3：14の「イエスは自分の傍に置くために彼らを選んだ」というテキストを読み、これにそれぞれの時課の祈りを加えました。私たちが生きているこの時代にあって、神がどのように私たちの生活の中に現存して居られるかを発見し、歴史の現時点で神は自分たちを何処に派遣しようとおられるのかを自分に問かけるためには、生徒達が個人的な考察と個人作業のためのこのような時間を持つことが重要なのです。ルカ福音書19章にあるザアカイのように、私たち一人一人の生活の中で傍を通っているイエスに気づき、そしてまた、私たちのすぐ側を通っておられるイエスを見るための必要な手段を取るために、私たちは自分自身を知ることが重要であると信じます。

CPSM Confirmation Team





CHAMIADVENTURE

Aventuras de Chaminade por el mundo en su 250 cumpleaños



Chamiadventure (シャミ冒険) とは何ですか？ これは福者ジョゼフ シャミナードの生誕250周年を記念して、スペイン マリアニスト管区の司牧チームが発案したものです。

目的 福者シャミナードの生誕250周年を祝うため、世界中にあるマリアニスト教育センターを結びつけようとするものです。

解説 これは一つの冒険です；スペインのマリアニスト教育センターの高校生にとっての本物のチャレンジとなります。このチャレンジは、マリアニスト教育センターがある世界中の街角からシャミ人形写真を手に入れることにあります。私たちは、世界中の至る所の生徒達の顔写真と一緒に写っている、シャミ人形の全ての宣教の旅の写真を集めようとしているのです。

この試みは世界中のマリアニストの生徒達を一つにしようとするものです。この生誕記念の年の終わり(2012年1月22日)には、シャミ人形と一緒に写ったマリア会の全ての学校の写真を手に入れたいものと願っています。これに参加するには chamiadventure@gmail.com をクリックしてください。直ぐに実行してください！

BRAZIL—Bauru



Jakob Gapp School (Bonakal) INDIA

**San Antonio —
Callao— PERÚ**



Buenos Aires—ARGENTINA



**Albertus Magnus
Wien—OESTERREICH**



**Amoros
MADRID**



東アフリカ：地区の新しい召命チーム

2011年5月、召命活動を更に活発化するため、地区の新しい召命チームを設立することが決定されました。ケニア、マラウィ、ザンビアの各国では、コーディネーター一名とアシスタント二名が任命されました。Bro. Dingiswayo Soko がケニアと地区全体のコーディネーターです。Bro. Tim Mazundah（故人）はマラウィの3名のリーダーの一人だったのですが、今後は兄弟たちを天国からサポートを続けることになります！

このチームは、7月に、地区の Fr. Gabriel Kirangah 霊生部長の指導のもとに、5日間にわたる考察と組織化のための会議を開きました。地区の兄弟たちの積極的なサポートを得て、このチームが多大の成果を上げることを私たちは願っています。



Bro. Dingiswayo Soko

ケニヤ

世界マリアニスト祈りの日におけるファウスティーノ会への年次入会式



これら少年たちの多くは私たちのナザレトの聖母小学校、それに聖マリア小教区から来ています。これらの子供たちが、ファウスティーノの生涯を模範として選ぶのを見るのは素晴らしい瞬間でした。Fr. Mike June が司式者を務めました。この式には200名ほどの会員が参列しました。

Bro. Julius Nandi, SM

何故、これほど多くの若者たちがイエスの呼びかけに耳を傾けようとしないのでしょうか？

クラレチアン宣教師会召命リーダー Fr. Juan Carlos Martos, CMF とのインタビュー



フアン・カルロス・マルトス (Fr. JCM) 神父は、良く知られた著作「心を開け。困難だが素晴らしい時代の召命司牧」の著者です。2009年にZenit社によってなされたこのインタビューは、丁度出版されたところです。

Zenit : イエスは、2000年前、チベリアデ湖畔でなされたように、今も自分に従うようにと男性、女性に呼びかけ続けています。問題は、現代の多くの若者はこの呼びかけにどのように耳を傾けたらよいのかを知らないことです。

JCM : 召命の話題は、特に私のクラレチアン宣教会にあって、現在私たちが遭遇している最も重大な問題の一つです。

本の題名にある「困難な時代」とは、現在わたしたちが生きている状況は、社会的局面でも、教会の局面でも、神が最終的な基準となっていない文明であるということの意味をしています。それで、神が最も重要でないとすれば、神は、簡単に言えば、全く重要ではないのです。この意味で、現代の人間が下す決定にあたって、それが大きいとか小さいかを問わず、神は蚊帳の外におかれてしまうのです。明らかに、この状況は、現在、未来を問わず、教会を真の困難に陥らせてしまうのです。神は人間の視界から消え去っているのです。

— 若者が御主に“はい”と答えない真の原因は何だとお考えですか？

幾つもあります。でもその中心となるもの、最も気がかりなものと思えるのは ナルシズム(自己愛、自己中心主義)です。現代では、人は自分を中心にして生きています。この状態は最も近い声に対する難聴状態を引き起こします。幾つもの声はすぐ傍で響いているのですが、人々の感性、彼らの望み、自分たちの直観、あるいは自分たちの趣味から来たものでない呼びかけは、巨大な無感覚とぶつかってしまうのです。これは自己中心主義だと私は思います。

— この状態に対する解決策はあるのでしょうか？

そうですね。私たちが今なすべきことは次のことだと思います：現代の若者たちが、「私は自分の人生をどのように過ごそうか？」と自分に問いかけるのではなくて、「主よ、この人生をどのように過ごすことを私に望んでおられますか？」と神に問いかけることができるように全力を尽くすことです。

そして、このように進むためには、若者たちが神に対する大きな感謝を体験することが基本となると私は信じます。そうすれば、「私のためにこれ程までなさってくださいました主よ、あなたは私が何をすることを望んでおられるのですか？」という問いかけが出てきます。

私は、これが問題解決の鍵だと思います。現代の教会の確信は以下の通りです：召命司牧活動は教会の司牧活動にしっかりと根をおろしているか、あるいは、司牧活動の中で周辺的なもの、ぼやけたものに留まっているか、どちらかです。これは、召命についてもっと意識する雰囲気を作り上げるという問題です。すなわち、今までのように、召命司牧活動の話題は司牧活動全体の裏に隠れた小さなシンデレラのような存在であり続けてはならないし、むしろ、召命司牧活動をそれにふさわしい前面、司牧活動の中心に出さなければなりません。私はこれが召命司牧活動の適切な場であると信じます。というのは、召命司牧活動は、すべての人をどんな人でも、呼びかけておられる(招いておられる)主の前に置くことを意味するからです。



Mark Motz, Aspirant — San Antonio



2011 08 — Mussidan — Rue des Frères Chaminade



2011 08 Spanish group at La Chartreuse

SOCIETE DE MARIE - SOCIETY OF MARY -
COMPANIA DE MARIA

Via Latina, 22 - 00179 ROMA (IT)
genrelsm@smcuria.it

次回の VOCSM の発行は 2012 年 2 月です。

皆さんの活動についてのニュース、写真、あるいは提案、などを送ってください。
genrelsm@smcuria.it